

2030中期経営計画策定に向けた取締役会における議論

NECは取締役会での議論を充実させるため、取締役間の相互理解の促進や共通認識の形成にオフサイトミーティングを活用しています。2030中期経営計画の策定にあたって、重要テーマについて2024年から連続性を持った議論を行い、中長期的な企業価値向上に向けた検討を重ねてきました。計画遂行フェーズにおいても実効性の高い取締役会運営に努め、外部の視点を経営に活かしていきます。

2030中期経営計画の策定に関わる主な議論実績



メッセージ

社外取締役

佐藤 慎次郎



取締役会を通じて磨かれたBluStellar

2030中期経営計画の策定過程を振り返ると、取締役会が単なる審議の場にとどまらず、経営陣との率直な対話を通じて戦略の方向性や成長の在り方を議論する場として機能したことが印象に残っています。

正直に言えば、最初にBluStellarについて聞いた時、「NECは何を変えようとしているのか」「従来との違いはどこにあるのか」が十分には理解できませんでした。その後も、経営陣はこのテーマを取締役会やオフサイトミーティングに繰り返し持ち込み、社外取締役からも

率直な疑問や意見を出して議論を重ねることで理解が深まりました。取締役会を通じて議論が成熟していく、そのプロセスにこそ大きな意味があったと思います。AIネイティブカンパニーという考え方も同様で、AIを取り巻く急速な環境変化を受けて議論が深められ、環境変化を機会として取り込んでいくという意思のもとで中期経営計画の中核テーマに位置づけられました。こうした対話の積み重ねが、NECの対外的な説明力にもつながっていると思います。

社外の視点から問い続けた成長への挑戦

中期経営計画の策定において、足元の事業環境や実現可能性をふまえると、どうしても目標が現状の延長線上になりがちです。一方で、当時のNECは株価の上昇とともに市場からの期待も高まっており、その期待と計画との間にギャップを感じていました。そこは正直に伝えるべきだと思ったので、より高い視座に立った目標やビジョンを描く必要がある、ということを伝えました。最終的に、長期目標として海外利益比率50%やグローバルトップティアを目指す

方向性が示され、NECが日本国内にとどまらず、世界で存在感を発揮するテクノロジーカンパニーを目指す意思が明確になったと感じています。

2030中期経営計画の実現に向けた重要課題

今後のNECに期待することは多くありますが、まず重要なのはグローバル事業の成長基盤を確立することです。海外で芽生えつつある事業やオペレーションの核の一つひとつ強化し、次の成長につなげていけるかが問われています。加えて、テクノロジーリーダーとなるためには、M&Aの戦略的な活用も重要な鍵になると考えています。また、多様な人材を集めるだけでなく、その力を組織として発揮できる環境を整備することも欠かせません。そして何より、AIネイティブカンパニーへの変革です。コンセプトとしては魅力的ですが、NECが本当に変わるかどうかはこれからです。不確実性の高い時代だからこそ、変化を機会としてとらえながら、自らを絶えずアップデートし続ける企業であってほしいと思います。